

1 施設の概況

退所者のアフターケアとして、個別支援では、段階的な地域生活への移行を目指し、ステップハウスや社会復帰促進事業を活用した円滑な地域移行支援を実施。また、事業終了後に地域から孤立しないよう、居住地域の社会資源へ結び付けることを重視し、作業所や訪問看護、ヘルパーなど精神保健福祉分野のサービスを積極的に導入。集団支援では、利用者同士の交流と情報交換の場としてミーティングとミニ行事を毎月実施。ほかに各種季節行事を通して利用者相互の関係づくりを支援し、居場所を持てるよう取り組んでいる。

2 主要目標と取り組み

- (1) 地域・関係機関とのネットワークの強化
- (2) プログラム・所内作業や各種行事を通じた潤いのある生活継続の支援
- (3) 訪問看護や作業所など地域の社会資源を活用した地域に根付いた支援
- (4) 利用者個々の状況に応じた支援・サービスの提供と OG 支援事業での継続支援
- (5) 年間入所目標（月初利用）

定員	29 年度目標	28 年度目標	28 年度実績(見込)
通所	14 人	14 人	14 人
訪問	1 人	1 人	1 人

3 管理運営

- (1) 日常の援助
 - ①居宅生活安定に向けた支援
 - ア 日常生活支援（適宜訪問し、生活状況を把握し、個別の事情に即した支援を行う。）
 - イ 健康管理支援（看護師や嘱託医、主治医と連携して体調の変化に注意を払う。服薬自己管理移行においては怠薬に注意を払い、支援する。（服薬管理者常時 4 割程度）
 - ウ 栄養管理支援（栄養士と連携し、個別に喫食状況を確認。偏食の利用者にもバランスの良い食事摂取を指導。地域センター設備を活用した調理実習や、ステップハウス等での個別の調理指導を実施）
 - エ 金銭管理支援（家計費の状況把握と計画的支出の支援、預り金を含む金銭管理）
 - オ 衛生管理支援（居室清掃、入浴、洗濯の確認、ゴミ出しの支援）
 - カ 就労活動支援（所内作業の継続、求人情報提供、履歴書作成支援、就労相談の活用）
 - キ 関係機関連絡調整（福祉事務所、訪問看護ステーション、保健師、医療機関等）
 - ク 各種社会資源の活用援助（作業所、訪問看護、介護保険等関係機関）
 - ②更生施設の機能を活用した支援
 - ア 所内作業機能の活用（通所利用者が新規メンバーに教える立場を担うことによる生き甲斐支援。転居後も継続参加する事で環境変化を防ぎ、体調の安定を図る。）
 - イ けやきプログラムの活用（平日は、毎日プログラムを実施。刺し子や華道・ヨガなど、ボランティアの先生やメンバー同士の交流を通して生活の潤いを提供する）
 - ウ 食事・入浴・洗濯サービスの利用（回数券制度の導入により連続利用を促進）
 - エ バックアップセンター施設利用者支援事業の活用（法律・就労・住宅相談等）
 - ③諸行事
 - 通所ミーティング（セールス対策ロールプレイ、暮らしの便利帳の活用法、ミニ菜園などを月例ミーティングと一緒に実施）、新年会、歩行会、クリスマス会、防災講座（災害食メニュー調理実習、簡易トイレ利用体験、災害時伝言ダイヤルの体験）

- (2) その他
 - ①緊急時の対応（電話相談と訪問による安否確認や応急対応、柔軟な緊急宿泊の実施）
 - ②母子分離世帯における児童相談所、児童養護施設との情報交換、面会支援
 - ③通所事業終了後も OG 支援制度を活用した自立生活への継続支援